

平成 28 年 3 月 9 日

森町長 村松藤雄 様

公立森町病院経営改革プラン評価委員会
委員長 高橋 泰

森町病院事業経営改革プラン評価委員会意見書

森町病院事業経営改革プラン評価委員会において協議した結果について、以下のとおり意見書として提出する。

(1) 平成 27 年度 第 3 次経営改革プラン取組結果・評価について

総括：本年度の経営状況は非常に厳しい見込みになっている。これは、内部環境としての医師の減少、外部環境としての中東遠二次医療圏の機能分化の進行に伴う患者数減少、単価低下の影響によるものと考えられる。年度末の現在は、医師確保は昨年度と同様の状況に回復し、また、病棟再編により病棟構成も今考えられるベストな形になっている。更に、コスト削減も効果が出始めるなど経営改善の努力も見られるため来年度の経営状況の回復に期待したい。

病棟編成

今後の掛川や袋井からの患者の減少も想定し、平成 28 年 3 月に急性期 45 床、地域包括ケア病棟 48 床、回復期リハビリテーション病棟 38 床の体制に変更したことは素晴らしい。短期的には経営に貢献するが、地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟の患者の振り分けが課題となる。

回復期リハビリテーション病棟

回復期リハビリテーション病棟は、中東遠二次医療圏内の人口当たりの病床数が多いことから、選ばれる回復期リハビリテーション病棟にならなくては生き残れない。そのためには、“質”が重要である。

業務委託

提言を実行していることには評価したい。更なる努力を期待する。

入院及び外来単価

入院単価、外来単価が低い。必要な医療をきめ細かく提供する意識で取り組んでもらいたい。

森町在住の外来患者減少対策

当院で対応できない外来患者が磐田市立総合病院、中東遠総合医療センターに受診することは理解できるが、その後当院に戻ってくる体制は構築されているのか。病病連携のしくみに一層の工夫が必要と考える。

(2) 平成 28 年度 事業計画(案)について

入院医療

病床利用率が急性期 90%、地域包括ケア病棟 95%、回復期リハビリテーション病棟

95%はハードルの高い目標ではあるが、地域連携の充実・強化により、予定入院による患者を確保するよう努力してください。急性期は、入院基本料7対1を維持して単価41,000円を達成してください。

外来医療

外来患者の増加について、家庭医療センターの機能発揮等を含め職員の努力に期待したい。

職員数の適正化

職員給与費対医業収益比率65%を目指すにあたり、安易に委託費への振り替えに成らないよう委託費対医業収益比率にも注意して行ってください。

【日時】 平成28年3月6日（日）午後2時00分～午後4時30分

【場所】 公立森町病院 会議室

【協議事項】

- (1) 平成27年度 第3次経営改革プラン取組結果・評価について
- (2) 平成28年度事業計画（案）について

【出席者】（五十音順、敬称略）

委員長	高橋 泰	国際医療福祉大学医療福祉学部医療経営管理学科教授
委員	安間 剛	西部保健所長
	川崎 義夫	ホームイノベーション株式会社代表取締役
	小林 利彦	浜松医科大学医学部附属病院医療福祉支援センター長
	中村 昌樹	公立森町病院長
	山岡 泰治	浜松医科大学地域医療学講座特任教授